

# 高齢者のスキンケアについて 2

皮膚科

ケ

ガや火傷を負ったときにできるキズは、その形や深さによって治癒するまでの間に様々な反応が現れてきます。深い傷の場合は外科的処置が必要になりますが、比較的浅いキズはそのうち治ると放っておかれがちです。しかし、思いのほか日数がかかったり傷痕が残ったりすることもあります。傷痕を残さず早く治したいという観点から、以前の治療法が見直されるようになってきました。

まず、常識と考えられていたキズの『消毒』について、必要ない時はしない方がよいということです。消毒薬は殺菌作用を持つと同時に皮膚の再生のために必要な細胞にも有害であるため、治癒を遅らせてしまう可能性があるからです。受傷して直後の化膿していない時は、消毒せずに水で洗い流すだけでよいと考えられています。

もう1つ重要な常識の誤りがあります。キズができると皮膚組織周囲からジクジクとした透明な液体が滲み出てきますが、これを化膿したと誤解して、傷口を乾かした方がよいと一般に考えられてきました。しかし、最近では湿潤療法といってキズを乾かさないうでラップフィルムなどで被覆するやり方が良いと言われるようになったのです。これは傷口に滲み出したジクジクした液体に皮膚の再生を促進する作用があることがわかってきたからです。乾かさないと膿むというのは間違いで、細菌感染を起こしてもすぐに水で洗い流して交換しておけばよいのです。この方法は傷口を外界から保護する利点もあり、ガーゼがキズに張り付いて取り替えるたびに痛みを我慢する必要もありません。但し、化膿しているかどうかの判断は難しいので、早めに一度来院して下さい。火傷の時は冷やして水疱を破らないようにしてご来院下さい。

梶山 理嘉

医療法人社団めぐみ会

田村クリニック2

東京都多摩市落合1-35 ライオンズ多摩センター3F

<https://www.tamuracl2.com/>

予約・お問い合わせ

042-357-3671

※科目により診療時間及び受付時間が異なります。  
詳しくはお問い合わせください。

ホームページ

